

# 線形代数学第一 (LAS.M102-10)

行列の演算

山田光太郎

`kotaro@math.titech.ac.jp`

`http:`

`//www.math.titech.ac.jp/~kotaro/class/2022/linear-1/`

東京工業大学

2022/04/15

## 前回の補足

$$A = \begin{bmatrix} \mathbf{a}^1 \\ \mathbf{a}^2 \\ \mathbf{a}^3 \end{bmatrix}, \quad B = [\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2]$$

## 列ベクトル・行列の積

$$A = \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{bmatrix}, B = \begin{bmatrix} b_{11} & b_{12} \\ b_{21} & b_{22} \end{bmatrix}$$

- ▶ 2 次の列ベクトル  $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$  に対して, 列ベクトル  $\mathbf{y} = A\mathbf{x}$  を対応させる対応の規則  $f_A: \mathbf{x} \mapsto A\mathbf{x}$  (線形変換)
- ▶ 2 次の列ベクトル  $\mathbf{y} = \begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \end{bmatrix}$  に対して, 列ベクトル  $\mathbf{z} = B\mathbf{y}$  を対応させる対応の規則  $f_B: \mathbf{y} \mapsto B\mathbf{y}$

## おまけ 1

$$R(\alpha) = \begin{bmatrix} \cos \alpha & -\sin \alpha \\ \sin \alpha & \cos \alpha \end{bmatrix}$$

- ▶ 2 次の列ベクトル  $\boldsymbol{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$  に対して, 列ベクトル  $\boldsymbol{y} = R(\alpha)\boldsymbol{x}$  を対応させる対応の規則

## おまけ2

$$S(\alpha) = \begin{bmatrix} \cos \alpha & \sin \alpha \\ \sin \alpha & -\cos \alpha \end{bmatrix}$$

- ▶ 2次の列ベクトル  $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$  に対して, 列ベクトル  $\mathbf{y} = S(\alpha)\mathbf{x}$  を対応させる対応の規則

# 問題 1-1

## 問題

次の行列の型, (2, 4)-成分.

$$A = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 2 & 4 & 6 \\ \pi & 0 & 5 & e & -2 \\ \log 3 & 1 & -2 & 4 & 1 \\ 0 & 1 & 9 & 8 & 3 \end{bmatrix}$$

## 問題 1-2

### 問題

すべての成分が 0 であるような  $(m, n)$  型行列を,  $((m, n)$  型の) 零行列とよび  $O_{m,n}$  と書く (テキスト 10 ページ).

文脈から型が自動的に決まる場合は  $(m, n)$  を省略して「零行列  $O$ 」などと書く.

また, 行の数と列の数が一致する行列を正方行列という (テキスト 2 ページ).

問題 1-1 の  $A$  と  $(p, q)$  型行列  $B$  に対して

$$AB = O$$

が成り立ち, さらに零行列  $O$  が正方行列となるとき,  $O$  と  $B$  の型.